

学生コーディネーター企画
「Greenフォト
2017」
～首都大魅力再発見ツアー
SPRING～

報告

2017/05/27



「Greenフォト2017」 in 首都大

5月27日（土）、本学保有の美しい自然を体験してもらい、環境保全活動への理解やボランティア活動への関心を持ってもらうための企画「Greenフォト2017～首都大魅力再発見ツアー-Spring～」を開催しました。

この企画は、本センターの学生コーディネーターが計画・準備したもので、現在本学施設課が主導している「エコキャンパス・グリーンキャンパス推進」の取り組みを、より多くの学生に知ってもらいたい、という思いから計画されたものです。

活動は、松木日向緑地を散策しながらの写真撮影とゴミ拾いを主軸に、写真部の協力のもと、事前・事後講習にて写真撮影勉強会や撮った写真の講評会も実施しました（散策エリアは、裏面「松木日向緑地散策MAP」の赤丸を参照）。普段ボランティアや環境保護に関心を持っていない方にも参加してもらえる企画となりました。

・事前講習（写真部による撮影講習）

緑地での散策を始める前に、まずは事前講習を実施しました。学生コーディネーターの柳田君が、この日のために用意したスライドを使って、「里山における生き物たち」や「散策において注意すべきこと」、「今回の企画の詳細」について参加者に説明。シンプルながら多くの情報が入ったスライドで、わかりやすく伝えてくれました。

その後、写真部の方より写真撮影勉強会を実施。前日に緑地を散策して撮影してくれた様々な写真を表示しながら、いろいろな撮影のコツを教えてくださいました。カメラの絞りや露光を調整する他にも、疎密の組み合わせや3分割法といった、いい構図のサンプルも紹介され、高価な機材がなくても工夫次第で面白い写真が撮れることを教えてくださいました。

・緑地の散策とゴミ拾い

事前講習の後は、企画のメインイベント「緑地の散策」です。スタート場所は協裏。そこ

からひょうたん池に下っていくコースと図書館裏から11号館裏まで通じているコースとの2グループ（前者がAグループ、後者がBグループ）に分かれました。各グループには写真部も同行してくれ、どういった写真が好きかといったお話や、自分の撮りたいと思った写真に関するアドバイスなどをしてくれました。

6月直前でかなり蒸し暑い時期だったので、緑地の中は木陰のおかげで大変過ごしやすかったです。木々の中から差し込む木洩れ日と、それに照らされた鮮やかな緑は、散策・撮影の時間を大変楽しいものとしてくれました。

また、ほとんど人が立ち入らない様に思える緑地の中でも、ずっと放置されていたであろうゴミがあり、散策が終了するまでにそれぞれ袋一杯ほどのゴミを拾うことができました。

・事後講習（写真部による講評会）

活動が終了した後は、事後講習を設け、撮った写真の講評会と振り返りのグループワークを行いました。

写真部の講評会では、各々が散策中に撮影した写真を集め、部員それぞれが気に入った写真を一枚ずつ取り上げて紹介。その写真のどこが気に入ったのか、何が面白いのかについても語ってくれ、写真を撮ることの面白さだけでなく、撮られた作品を見ることの楽しさについても知ることができました。

グループワークの司会は、学生コーディネーターの丹羽君が担当。今回のイベントが、「写真撮影楽しかった」だけの感想にならないよう、「松木日向緑地にてポイ捨てされているゴミやそれを拾ってみてどう思ったか」、「施設課の取り組み以外にも私たち学生で、松木日向緑地の為にできることがあるか」といった様々な議題を投げかけながら、活動の見直しを進めてくれました。

また、同じ松木日向緑地で「地域ボランティアプログラム」の一員として、竹林の干ばつや竹炭づくりといった環境保護活動を行っている、印出井君が発表を行いました。自分たち



活動後の事後講習の様子

事後講習も散策したグループでそれぞれ実施。事前講習では初対面の人の中で緊張もあったようでしたが、活動を通じて親睦も深まり、様々な意見が出されました。「緑地の様子はどうだったか」「ゴミを拾ってみての感想」などについて、皆で熱心かつ楽しげに議論することができました。



ゴミを拾っている様子

緑地内はそれほど多くのゴミがあったわけではありましたが、ずっと長く放置されていたであろう古いゴミや、落として忘れられたものなどがありました。拾ったゴミの中には、現在販売されているものとはデザインが異なるほど古い缶ジュースの空き缶があり、「ゴミはゴミのまま、ずっとそこに残ってしまうのだな」と改めて実感することとなりました。

が緑地でどういった取り組みを行っているのか、そうした取り組みがなぜ必要なのか等について、自身の昨年度の経験を踏まえて説明してくれました。印出井君は昨年度末から多くの発表を行ってきたこともあり、二年生ながら物怖じをせず、堂々とした発表をしてくれました。

・参加者からの声

1. 参加した学生からの声
 - ・普段立ち入らない緑地の美しさを感じられた。また、「意識的に写真を撮る」という、普段しないことをしたことが、新鮮で楽しかった。
 - ・土に還らぬゴミもあるのできちんと捨ててほしい
2. 協力してくれた写真部さんの声
 - ・写真部は個々で活動することが多いので部としてなにか活動できてよかった。
 - ・色合い、光の量が様々で写真撮影が難しい場面もあった。
3. 企画を実施した学生コーディネーターの声
 - ・だれもケガすることなく、楽しく活動できた
 - ・反省すべき課題や企画実現に向けたブ

ロセスをしっかりと実感をできた。

・最後に

今の学生コーディネーターにとって初めての自主企画。活動の立案や計画書の作成はもちろん、配布資料やスライド、ポスターなどの広報活動といった、ほとんどすべての取り組みを彼らが行ってくれました。活動後に行われた振り返りでは、多くの反省点があげられましたが、スライドの完成度や各自の発表内容、進行、ポスターの出来などについては、初めてとは思えないほど素晴らしいものだったと思います。企画のサポートをしてくださった施設課の職員さんからも、「こうした学生主体の企画を通じて、少しでも首都大の緑地について考える学生が増えていってくれたら、と思います。この企画は、その第一歩になった。」という感想をいただきました。

このグリーンキャンパスに関わるものに限らず、今年は学生コーディネーターの自主企画を多く実施していく予定です。今回の活動を弾みに、さらに素晴らしい企画を作り出してくれると思います。



松木日向緑地の様子など



ひょうたん池で虫取りをしている地域の方

【Greenフォトを計画した、学生コーディネーターたちからの声】

- ・計画の実現に向けて、そして、企画当日、多くの反省点や課題にぶつかったが、それらをしっかりと実感をできたことがよかったと思う。
 - ・ボランティアは高尚なもので、誰かのためになることというのではなく、実は自分の為にしたこと地域社会に何らかの影響を与えるといった、企画者の考えが伝わったと感じた。
 - ・緑地の価値を他の人に知ってもらえてよかった。
- 次回は今回の反省を生かし、多くの人に里山の美しさを知ってもらいたい。その為には広報、ひいては計画、情報共有の段階がとても大事になるので、今回のことは一つ大きな教訓にしたい。

松木日向緑地 散策MAP



※本学生物学専攻学生作「ひなたブック」より出版



←は、学生コーディネーターの市川さん作のポスター。手書きのきれいなイラストが、目をひきます。



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY